ヴィジュアルデザイン研究室

Visual Design Lab.

今井 美樹

IMAI, Miki / Professor

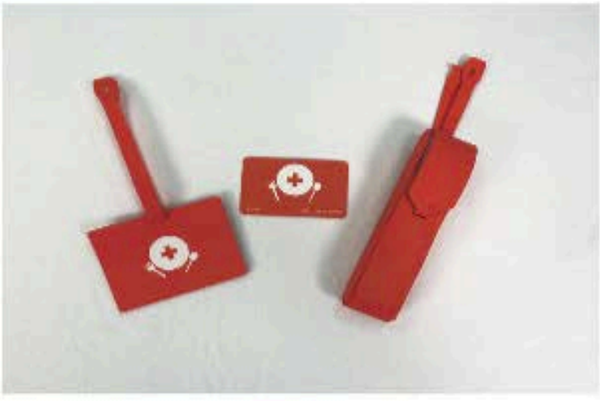
大人のための食物アレルギー対策 ―その知識を広めるためのツールの提案―

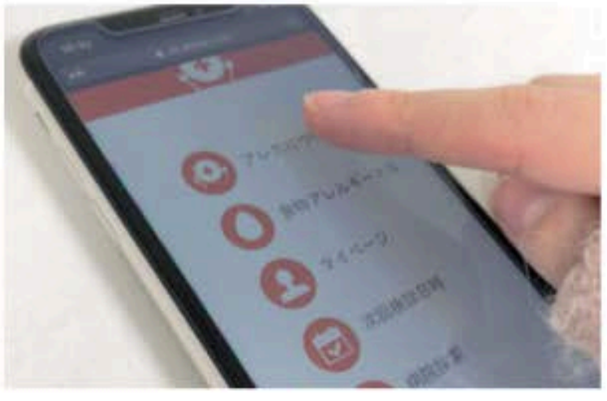
Measures against food allergy for adults : Proposal of tools for disseminating knowledge about it

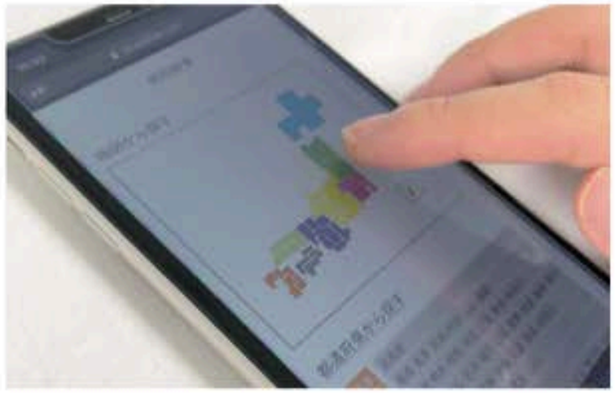
近年、成人の食物アレルギー患者が増えている。一般的に幼児期に発症する病気、成長すれば治るというイメージが強いが、当事者は周囲の理解を得られず、症状や対処法など詳しく知る機会がないのが現状だ。

そこで、食物アレルギーについて正しい知識と理解を発信する仕組みを提案する。その一つがアイコンとなるマーク〈アレカ〉である。一年ごとに検診を受け食材への免疫に備え、カードの裏面にはアレルギー情報、生年月日、かかりつけ医、エピペンの有無が記録・更新される。ケースに入れることで対外的に認知され、アナフィラキシーショックに対応するエピペンもケースに入れ携帯できる。

〈アレカ〉を広めるためにアプリは、カードと連携しており、過去の検査の閲覧、次回検診日、病院検索などが行える。パンフレットや動画がセットされたポップアップスタンドを駅や学校に設置することで多くの方が目に止まる仕組みも提案する。







熊野 菜美華
KUMANO, Namika

これからの和菓子屋の在り方 ―甘味処 甘幸堂のブランディング計画―

Branding for *wagashi* shop in the future : KANKODO established in 1960 in Kobe

両親が営む和菓子屋「甘幸堂」は創業60年もの歴史がある。近年の和菓子離れの現状を打破すべく２種類のブランディング方法を提案する。

１つ目は老舗のイメージを守りつつ、従来のパッケージにはない配色とフォントによる統一感を用いたブランディングをする。既存の顧客にも違和感のないリニューアルを目指し、手土産は和菓子が普通になる事を目指す。

２つ目は和菓子の改良として定番商品のどら焼きを一口サイズに変更しチョコレート・抹茶・クリームの味のバリエーションを増やした。この商品を用いて季節ごとのコラボ企画を行う。例えば本のジャンルごとでコラボする「和菓子と本」。風鈴やガラス食器などの夏の風物詩とコラボする「和菓子と納涼」。その都度変わるパッケージやショッパーでリピートに繋げる。新たな販売方法によって客層を広げ、和菓子の可能性を見出す。

後藤 司

GOTO, Tsukasa

書 装 ―書き損じ半紙によるドレスの制作―

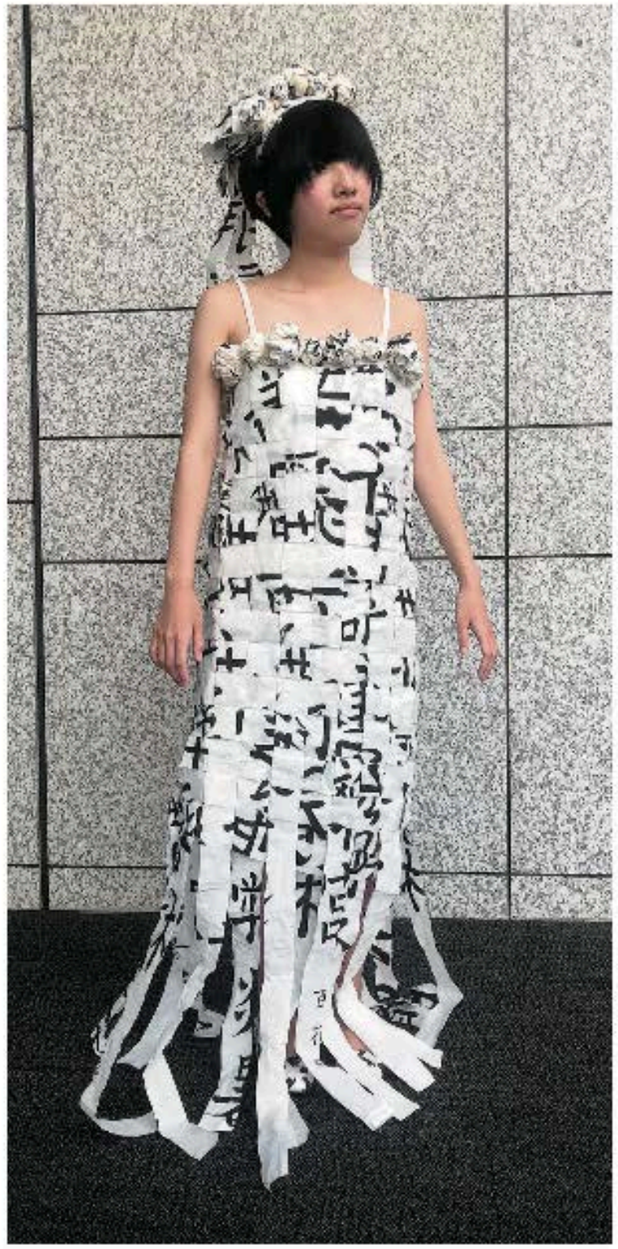
SHOSO: wearing calligraphy : Making dresses with wasted Japanese paper

日本では、言葉に魂が宿ることを「言霊」、書かれた文字に魂が宿ることを「文字霊」と言う。

私は書道部に所属していたのだが、たくさん出る書き損じ半紙を捨ててしまうのは勿体無いと日頃から感じており、これで何か作れないかと考えていた。和紙は耐久性があり、こんにゃく糊などで強度を上げることにより服の素材に使われることもある。

そこで、書いた人の魂が宿り、エコでもあり、書道をファッションに落とし込んだドレスを3着制作した。1着目は薔薇をモチーフにしたシックで装飾的なイブニングドレス、2着目は1930年代をイメージしたクラシカルなウエディングドレス、3着目は着物から着想を得たカクテルドレスである。

作品名は、本来捨てられてしまう「書」に身を「装」い、書道の上達に必要不可欠なプロセスにおいて発生する書き損じ半紙に価値を見出す「書装」とした。



高橋 ありさ
TAKAHASHI, Arisa

tact-blocks ―手と目と耳で学ぶ知育玩具―

tact-blocks : Educational toy for children to train senses of touching, seeing and hearing

子どもの能力や好奇心を養うためには、五感に刺激を与える遊びが必要である。五感が発達することで、脳が活性化し、表現力や想像力、発想力などが身に付く。そこで、子どもたちが多くの素材と触れ合うことで、触覚、視覚、聴覚を養いながら遊び、学ぶことができる知育玩具を提案する。子どもの成長に応じて遊び方を変え、乳幼児期から学童期まで使用が可能である。

立方体の木製ブロックの中に食材が入っており、積み木と音あそびの役割を果たす。生後5か月頃から自分で音を鳴らし、7か月頃からブロックを並べて積み木あそびができる。4歳頃から食材名が書かれたカードを使用し、ひらがなや漢字、英単語を知る言葉あそびに発展する。小学校入学以降には、食の文化・歴史や植物の成長などを学ぶ教育に繋げることができる。

日常生活に欠かせない食材が子どもの好奇心を育み、楽しく学ぶきっかけとなることを望む。

竹貞 美咲
TAKESADA, Misaki

インテリアとして鑑賞する、切り絵による造本

Creating book of paper cutouts as interior decoration

切り絵は、一枚の紙から不要な部分を切り抜き、絵を完成させる手法である。切り抜いた部分から透かし見た光や影、空間に浮かぶ華奢な線が魅力的な一方で、絵画のようにただ額に入れるのではその魅力は伝わりづらい。そこで切り絵の魅せ方として、インテリアのように飾ることもでき、手に取って楽しむこともできる本の制作を行った。

本の構造は、文章がほとんどなく、あるテーマに沿って各ページの切り絵を制作し、それを蛇腹状に繋げることで物語を展開する仕掛けになっている。蛇腹を広げるとそれぞれの絵を観ることができるが、閉じてページが重なることで陰影のある半立体的な一つの絵に変化する。

鑑賞方法は、掛け軸のように開いて飾る、閉じた状態の半立体を楽しむなど自由で、空間に合わせて形を変えることでインテリアとして様々な表情を観ることができる。

宮川 智哉
MIYAGAWA, Tomoya